



~10
7384
5



# 四民往來序

四民といふは士農工商を云ふ士は夫武勇を執り農  
 百姓として田畑作を以て夫木材或は土布を業  
 して高き方物と賣買を商と云ふと教ふことの  
 士は進みたるを以て子孫に傳へ國家の治むるを以て  
 北の民を身して在る農は身を以て徳を種福の種  
 を以ての杖田を由りて之を種ふ之を以て百姓の種  
 不れを  
 高き冠冕を以て高き士の次は此に上りて又種を以て  
 先づ大士等五人の首たる人任の家を治むるを以て之は  
 順ふる高きと云ふは高き也



三近自畫

一商之四民の内大  
 小厚薄の諸色を賣  
 得て利を以て金  
 銀財宝と化貨殖て  
 富有りて成藏ふる  
 を子に外富りて  
 て賣買の産業  
 と稼ぐるといひ  
 富るの様に追て  
 貪るるを以て  
 高利賣の  
 の道と云ふは  
 高利賣の  
 高利賣の  
 高利賣の  
 高利賣の

四民往來

卷之四

四

邦國にして忠義頂大黒の文種と高家に紀事高家  
 の真加とゆへて富有にたゆむるの守獲邦の八戸毎  
 に湯作していのちをたぐはるれども右の文種とい  
 うも非礼と受玉を非道の商ひにかゝるは徳と  
 才とをひこして必と我は備ふる商賣の印は化商  
 と成とへく味の内りて愛買れ工めんは限財をの  
 集まゆくと十病終の印をたぐへく又生惜を商人  
 の癖とてりてこの富をたぐへく入らぬ事といふ  
 人なり是又た別けを懦弱の印と出かせぬら  
 ゆと神急ハ極真してとぬものといふも有は  
 かのゆへに退屈なく行あるべきなりしや  
 かゆへにふつ高商人の印は倍文章とまきけ  
 けしめて一字のちとて記とて契のそんけい  
 うらつては我よりして高家お徳のそんけい  
 なるし事とたぐひなり

### 四民往來卷之四

#### 商之部目録

- 一 兵服取文章
- 一 兵服縁字類字
- 一 木葉屋文章
- 一 茶種一字類
- 一 五臟配當のち
- 一 脈之大小
- 一 肴屋文章
- 一 魚鳥の文章
- 一 献立の書極
- 一 刀具屋文章
- 一 道具縁字類字
- 一 産屋借文章

- 一 烟草之文章
- 一 花見燈文章
- 一 三月堂句文章
- 一 龜乃文章
- 一 九月堂句文章
- 一 秋語文章
- 一 病人名也恠
- 一 婿礼文章
- 一 葎岩石縁字類字
- 一 田帳と糸治文章
- 一 五月堂句文章
- 一 八朔乃文章
- 一 果茶の文章
- 一 樵木の恠化文章
- 一 入学文章

○ 吳服取文章

的春沙婿礼の由こ  
 沙棧織之内韓の  
 右及比合縁細と新  
 減唐綾墨子編珠

沙衣膝蒲團（の）白履（の）  
 地立紋類（の）皆（の）沖扇（の）  
 方（の）好沙離（の）兵（の）口（の）る（の）取（の）  
 尸（の）水（の）射（の）花（の）縁（の）糸（の）法（の）海（の）島（の）  
 名（の）可（の）極（の）り（の）毛（の）は（の）海（の）及（の）島（の）

何（の）勿（の）福（の）西（の）味（の）織（の）店（の）  
 深（の）殿（の）床（の）子（の）活（の）繕（の）屋（の）取（の）  
 死（の）屋（の）配（の）糸（の）屋（の）繕（の）繕（の）  
 綿（の）摘（の）仕（の）立（の）屋（の）紡（の）繕（の）の（の）  
 半（の）牙（の）段（の）女（の）地（の）延（の）成（の）子（の）

集あつりらこ沙しやう月げつくのつつままらららら  
 取と障しやう極ごくくく曲まが結むす者もの々々  
 外あ沙しやう帽ぼう幕まくら糸いと沙しやう幕まくら  
 之の後のち絶たぎ法ぽう大たい地ち々々々々  
 唯ただ今いま之のをを了りすす

○縁字類字

金きん襪わく文ぶん紗しや寸すん多た綿めん猪ち羅ら縮しゆく精せい好こう猿えん狸り文ぶん  
 綸りん子し緋ひ縮しゆく縑しん織お刀たう布ふ縐しゆく齊せい商しやう裙くわん裳しやう  
 縐しゆく生せい縮しゆく紵しゆく素そ紗しや素そ襖わく單たん袴かほ水すい旱かん  
 於お掛け糸いと齋せい厨しゆく濃のう諸しよ好こう二に三さん諸しよ加か笑がう諸しよ日ひ裳しやう天てん  
 袴かほ絨じゆ白はく衣い禪ぜん衣い綢しゆく練れん被ひ於お琴きん汗あせ縮しゆく統とう  
 紐ひ平へい緯ゐ領りやう巾きん譬へい績せき平へい紅かう條じやう經けい緯ゐ縑しん  
 縑しん織お蜀しゆく江かう綿めん紗しや紗しや羅ら織お金きん絞しゆく鹿か間かん緋ひ  
 深しん衣い淨じやう衣い白はく張ちやう袋たい米まい十じゆ德とく相しやう服ふく常じやう衣い  
 近きん身しん衣い縐しゆく絆はん毳まい衣い後ご心しん襟きん緋ひ白はく襪わく紙し帳ちやう

得湿布 禪 犢鼻褌 巾 襪子 絁 綿織  
 木綿襪 小忌衣 白木綿 浴衣 內衣 浴巾  
 湯卷 綿繡 魚袋 虫袋 綾纏 禪 襪領 虫  
 袋 服衣 肺絆 脚布 襦 裙 鞠塵 裂 紗 綾  
 采 絹 紗 奴 袴 緇 紺 深 綾 紵 布 桌 拍  
 發 襖 調 度 掛 絛 道 緋 毳 衣 衣 紋 織 緇  
 襪 燕 尾 纓 吧 幘 哀 龍 吳 郡 綾 吳 服 皮  
 腰 袋 韃 巾 子 冠 袴 袴 靴 襪 蒲 團 衾 溫  
 紫 帛 巾 帔 浮 線 綾 練 衣 孝 子 衣 服 笠  
 禪 衲 裳 顯 文 紗 紵 布 襦 缺 掖 襖 蔽

藤 赤 前 齒 山 鳩 文 襪 襪 衾 卷 襪 卷 絛 枕  
 緇 深 朽 葉 花 子 維 綾 挂 絡 帽 笠 帽  
 表 衣 沉 織 袍 袴 襪 襪 子 帛 雲 綱 纒  
 卯 襪 帽 子 襪 保 子 襪 紗 縞 縞 縞  
 衣 白 露 緋 衣 緋 衣 緋 衣 緋 衣 緋 衣 緋 衣  
 板 襪 紗 虫 衣 襪 練 織 紵 綉 頭 巾 袍 袴  
 帔 裙 緇 襪 紳 袴 絛 縞 肚 脫 綾 衣  
 綾 紗 素 紵 道 服 冕 足 衣 單 皮 絛 襪  
 巾 襪 袂 表 脂 幘 必 線 紗 帷 子 袴 衣  
 布 衣 肩 布 布 袴 鞋 袴 行 紙 袴 韋 唐 笠





紛擾似ぬら心まの拂  
 底取百未白を誰  
 見物らうた浮休莫  
 線一或も水と博を  
 杯らお務りまは成

後胡乱何法々ま編  
 定は或もお撰性我  
 刃傷々何の傲老程書  
 一の勝るる痛部  
 是列粹々々撰らる

乃沙制家来丸散六味  
 地黃生々長好水五  
 酒制熟苧清炮焦々安  
 排鉄忌禁々々来  
 忌焦物蜜練之沙

色入子山来制来白  
 乳碎捣碎人安戸使  
 王侯白也

○来種一字詠

句	屯	加
永	井	小
西	文	女
多	玄	丹
莎	老	水
芾	伽	斤
利	田	玉
卑	守	周
走	奴	引

夔	會	翁	空	茅
密	喬	侯	泉	余
靜	魁	雪	蒼	定
精	動	籀	洞	佳
淡	瑞	希	衍	芸
蘋	雷	淡	洗	官
嬰	軾	液	劑	地
離	遊	童	貴	虎
	節	搖	圖	莽

○五臟六腑配當之歌

肝木膽府眼筋爪  
 心火小腸舌血毛  
 脾  
 肺金大腸鼻皮息  
 腎  
 土胃府唇肉乳  
 脾  
 水膀胱耳骨齒  
 脈之大意

浮而有力風無力虛  
遲而有力痛無力冷

沉而有力積無力氣  
數而有力熱無力瘡

○看脈文章

來十又日沙脉出之

餐無名腫人沙來

賓叔孝子拓法心盛

撰つ多相設思はあは  
 沙列業沙夜夜少  
 一之存名依思名  
 物沙科理子押金  
 沙道近つるは  
 沙道近つるは

越卯支身守仕金  
 取沙珠赤沙磨  
 下中道包近  
 上藤末沙物  
 及名沙丁密

弓片 庖丁 方伊 雲皮

園部 弓履 勿海 板平

能法 毛海 切到 尸者

左 日 取 下 毛 道 戸 山

沙 抄 之 皮 先 大 概

卓 束 入 沙 為 人 作

○魚の文字

鮫 魚 鱈 鮭 鱒 海牛 魚 烏 頰 魚 鰒 沙 魚

鯉 比 目 魚 鯉 魚 鱒 鱒 鱒 鱒 鱒 鱒 海 魚

格 魚 鱈 魚 雷 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚

魚 黃 鰮 魚 鮓 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚

青 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚

鯉 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚 鮭 魚





居菓子

蜂蜜餅  
久乾菓子  
西條白柿

座着

鱒吸物

鯛  
抽草

川白

焼判

莖王餘魚

家着

速箱

鯛  
魁蛤  
本海月

川煮魚

桃子

肴板

鮓  
鮓  
白鮓  
鮓  
鮓  
鮓

本膳

魚繪

鰻魚

捨鯛

山葵

栗

養



香物 香のりもの  
青瓜 あきうり  
葱 ねぎ

二

鴨法焼 ひんがやく

鴨 ひんが  
蚌 かきがら  
薯蕷 かぶ  
烏芋 くわい  
鰯卵 いわし

鰻魚 うなぎ  
小四方臺 こしやうたい

鰻 うなぎ  
山葵 わさび  
散大酒 さんたいしゆ

汁

獨活 どくわく  
滑石 くわくせき  
芍藥 せきやく

〜

三

貝焼 かいやく

鮑貝 あわい  
鰯卵 いわし  
鰻 うなぎ

川物 ひまもの

黄物 わうもの

白魚 しろいそ  
葱 ねぎ  
胡椒 こしょう  
山椒 さんしょう

炙物 あぶもの

鱈目 たらめ  
鮭 さけ

羹 かう

鰻鮮 うなぎ  
昆布 こんぶ  
山椒 さんしょう

壘あぐもの

串くわあひ 胡こ 胡こ 桃もも 麻あし

物もの 餅もち

落おち

燒やき 雜ざい 子こ 蒲か 圃ぼ 子こ

二に 餅もち

吸すい 物もの

蛾か 蠅じょう

看かん

十じゅう 種しゅ

夾くわ 看かん

蜥しり 渦うず 卷まき 總そう 灸あ 海かい 苔がい 少せう 海かい 丁てい 田でん 夫ぶ 縣けん

冷れい 水すい 物もの

栗り 乳にゅう 柿かき 子こ 梨り 苴そ 菇こ 蘿ら 蔔ぼく

富士山ふじさん

押おし 臺たい

大だい 魚ぎょ 看かん 五ご 種しゅ

湯ゆ 焦こが

○俗名の湯は湯乃のまじり書はぬハ  
非あり食意乃のまじり書はぬハ  
如ハ飯乃湯乃のまじり書はぬハ  
亭乃より冠湯と試書はぬハ

菜菓子なかし

小倉馒头こぐらまんぢう  
椎茸しいたけ

右みぎ 飯いひ

蕎麥そば 麥むぎ 剪きり

燒醬やきじょう  
醬じょう  
蕪わ  
蕪わ  
蕪わ

絞汁しぼり汁

吸物あひもの 二平にへい

川肴かわさかな 三平さんへい

御容おんよう

御相伴おんさへばい

佃大肉うらなまにく 氣き 松まつ  
雄弁おしべん 隼人はやし 松まつ  
百練ひゃくれん 主しゅ 松まつ 松まつ  
窪田くぼた 主しゅ 松まつ 松まつ  
曲まがり 測はかり 女め 松まつ 松まつ  
鷓鴣せきこ 松まつ 松まつ 松まつ

浮氣うきけ 郭かく 元げん 老らう  
向坂むかしばた 求馬もとま 松まつ  
弓ゆみ 射や 恭こう 安あん 老らう  
作しやく 斐はい 多た 女め 松まつ  
時とき 龍りゆう 松まつ 松まつ  
満まん 王おう 野の 昌しょう 松まつ

難子方彼者 又非人

曲方在彼者 百人

以上

○乃具足文章

し教中入部射新法

全館一箇取法好領  
とと陣屋法修造  
身む是を相仰ら万  
恙法拂底多持也  
口むむむむむむ

物質比末を以て  
 其を以て  
 戸付商賣古物具  
 市帳面列お見  
 仕長物半子文

庫沙掛礫類占子  
 恐物を仲仙道前  
 隆高を脚瓦波切  
 仕嘉道包沙店厨  
 向々雜具と浪舟

四民行來

卷之四

十七

刃屋者仕商の目  
 並和融ら遠州灘  
 取心をとる人  
 白く水で洗った物も少  
 成り分失心者伝

○縁字類字

書籍 尺符節 袿 巾 判 巾 肉 簿 帳 團  
 帳机 卓案 如坐 浄 拂塵 鐸 筆架  
 律管 碁盤 碁盤 雙六 寨 几 杖  
 水筒 硯屏 文法 墨方 筆架 壓尺 香燭  
 燈籠 燈臺 燭臺 提燈 燭剪 燭燭 香  
 盒 香案 香篋 炭團 線香 洞簫 荳蔻  
 風鐸 佩香 喇叭 油瓶 烟火 爆竹 眼鏡  
 鞠毬 杖 柘板 木偶 紙考 空淨 蝸牛  
 陀螺 竹子 風車 幟 鞆 弓 銃 柳 火薬

子 泔 棒 艇 船 竿 舂 鹿 岩 菩 旋 輦  
 輿 兜 跌 把 杖 野 航 輓 輓 轂 橫 軸 車  
 枕 檣 篷 棹 桿 檣 棧 檣 輻 輻 輿 輓  
 輓 輓 輓 竹 把 涼 瀟 簾 簾 罽 罽 罽 罽  
 歲 火 熨 弔 鈎 瀝 索 瀝 束 釘 繩 束 輓  
 輓 索 紡 織 績 桶 裁 刀 搗 砧 趕 網 槓 榦  
 木 挺 竿 鷹 架 石 斬 釜 浪 剪 檣 柱 戶  
 障 子 土 圭 展 風 簾 枹 縹 枕 牀 椅子 杓  
 席 匣 盥 筭 櫛 剪 刀 髮 空 子 殘  
 鏡 欄 壺 瓶 爵 注 子 鍋 釜 鼎 竈 甌

燧 火 朽 茶 匙 碗 飯 申 碟 猪 口 托 碎 食  
 籠 盒 桶 酒 桶 酒 槽 馬 槽 缶 杵 傘 杖  
 櫃 系 笄 系 杖 鑽 鑰 斧 錐 囊 秤 秤  
 署 篇 梳 吏 椅 棺 啞 壺 湯 婆 靈 牌 粉  
 匣 洞 提 標 湯 獲 名 洞 炬 火 風 爐 啣 筒  
 麪 杖 櫛 色 薑 擦 漏 斗 結 節 糊 刷 石  
 碑 提 盒 提 爐 砧 版 割 刀 渾 天 棧 天 平  
 杵 法 馬 木 色 笛 紙 子 和 卑 粟 送 魚  
 箸 抽 匣 滴 器 烟 盃 堆 朱 炭 斗 活 烟  
 蒸 籠 千 駄 匱 青 磁 滓 澆 桶 柁 乃 畚

獲物相 硝子 搯火杖 榦 折 扉  
大石 飯笊 簇

四民通用

○借る庄の文章

書生方借物も梅枝の席より  
 先下借草鞋の因自引文  
 少た借物及人狭道  
 字経下名均と長入幸裏

奇繁成表は浦は沙面代沙  
 意及身所後緒の物と  
 右の取物

○桐草の文章

恒常の沙草若紙丹  
 柔物と仕懐の物  
 多相仕着の沙古靴  
 沙燥の物



○縁字類字

吹烟管 管即竹 唇類 吸口 脂火 納

落相思草 異名 埭危丁 刻髮 烟草 駒

硝木口 柔卷板 葭草 色 固炭 烟管 攪

烟管 徹 吹骨

○死見之借文章

追日和融 乃成 蔚陶

布 宿 宿 宿 宿 宿 宿 宿

先 南 方 之 死 之 的 的 滿

軍 之 節 中 之 上 卒 尔 思

之 的 為 收 時 之 携

切 誘 友 之 了 後 一 真

之 何 之 比 次 休 息 之

枕を輝燿し系らるも  
 眺ら下法を麻お独  
 毎極し物泰又も懐  
 暮一衣用を法備  
 浣渥し死刃を去味

狂法か中しと  
 笑許しと玉は山

○国帳系法と文章

徳太子も深寫し法を八袖を  
 皇太后も心經を所名地を法を  
 長生を法を所名地を法を  
 後法を法を所名地を法を  
 檀林皇太后

河陽館より遠佛の時の方の智主  
成化の事遠くおろしは神胎の  
後中絶の事日向の廻向の終り  
佛の結ぶは地蔵の嬉し中へ

○三月三日の文章

上巳曲水之佳節 沙回志目も  
細い苗日と今人松子離子  
前々沙汰のゆゑ前載の源平批記  
柳枝の香 蓬蒿餅 至二十日

三月三日の文章

○三月三日の文章  
深草流瀉の神半のゆく  
紙と藤枝の影 藤枝の影  
深草流瀉の神半のゆく  
紙と藤枝の影 藤枝の影  
深草流瀉の神半のゆく  
紙と藤枝の影 藤枝の影

中元之沙祝儀有別の儀索麵一  
 打平把能登精十刺致進路々も  
 日教お通り清始る等々紛擾つ  
 成りて前儀成り奉り世用一財  
 之と認るも他古擔加穿費沙  
 家あり

○八朔之文章

たのむのまじりてのび  
 於母之会節之儀此民中  
 別々家あり已祝難  
 尸依る桑麻相々給り  
 是一花進上

作他其祝沙其室  
 毛見巡

○九月之旬之文章

宇陽之沙祝儀沙生  
 毛見巡  
 又穀を焼く者  
 沙儀行  
 遊らぬ由九  
 子片の栗樹各一籠を沙目

○栗木各々之文章

及月迫万戸一統日使  
 交易物家生来つる  
 煉拂毬杖と餅  
 春高季作姬等  
 生来孰石終年と下

と何依為菜末と  
 沙梨祝丹後郷二戸  
 塩箱三簀波進病ん  
 年四と早平昨日  
 与つる菜の湯と菜

子鶴万在てゆらぎて

○秋末看月帰思多古休閑

秋末看月帰思多古休閑  
旅館の感慨別多古休閑  
清文短日長長ら寝寤多  
等々白と宵極色多休閑  
長秋昔如今多休閑  
等々白と宵極色多休閑

○極本在休文章

山莊之代嗣多休文章  
極本在休文章  
相角の休本之類庭石多休文章  
藥茶と妙お進多休文章

○病人の追状

病人の追状  
沙感冒之候持病再發休文章  
淡来多休文章  
保老の多休文章  
休也休也休也休也休也

あめりけの習成を沙着るは法及何

○入学文章

兄弟の過子在庭弱生稟の如也  
達格育朝夕要蹀るは法姑也  
杜漸の中法貴の儀在能に當り相  
見り以て自ら相送るも沙の身入  
お書懐の海を別格に其れ

○婿礼之文章

此鳥と日栖寺以対沙

婿姻沙祝事と儀

取万端自尾石相海

尸以采子祥万福不

了るもくもぬ列

深くも深くは双方

けり の ことら づう の とも ちり  
結指 へ 沙龍 偶 名 仲  
妹 水 へ 通 成 心 縁 終  
愉 況 へ 心 何 浮 ら び  
怪 傲 目 球 へ 通 致 進  
上 へ 作 女 理 釋 へ  
大尾

四民日用重寶記 全部三冊  
女教訓寶箱 全部一冊  
女文章千代見草 全部三冊  
右迄付板紙

享保十四己酉曆九月吉日

堀川通錦小路上所

文臺屋治郎兵衛

同通高辻上町

木村 市郎兵衛

文臺屋源治郎

彫工師

柳屋 庄兵衛

帝都書林

K10  
17384  
5

日記往來 卷之四



